

紙用稿原聞新日朝京東

徑	手	哀	い	ホ	私	つ	し	が	り
ひ	に	さ	旁	千	が	と	た	が	ら
ま	親	さ	ら	が	ポ	其	か	み	つ
く	の	う	し	受	千	心	ら	が	つ
と	乳	で	く	ら	を	根	で	新	と
い	房	ぢ	な	し	幸	に	は	う	
小	か	ら	ら	か	福	需	な	ぢ	
犬	ら	ぢ	は	為	得	れ	い		
の	引	ぢ	必	だ	て	こ	私		
子	籠	ぢ	置	か	い	め	が		
の	これ	ぢ	い	り	で	ど	お		
運		ぢ	て	は	は		千		
命	廣	利	私	な	い		を		
ら	い	せ	は	愛			幸		
子	浮	人	ポ	ら			福		
傍	世	間	千	し			を		
心	を	力	か	可			道		
に	行		可				道		



紙用稿原聞新日朝京東

う	笑	く	味	笑	に	ま	る		も
て	が	と	清	い	に	れ	に	此	如
、	を	も	く	、	、	て	君	治	何
寐	れ	儀	に	、	、	、	び	極	に
て	、	と	三	、	、	、	ぬ	の	し
、	、	、	、	、	、	、	心	の	う
起	浮	、	、	、	、	、	と	馬	衣
き	世	に	、	、	、	、	、	び	と
て	を	、	、	、	、	、	、	ぬ	う
、	後	、	、	、	、	、	、	心	で
、	所	、	、	、	、	、	、	と	、
遊	に	判	、	、	、	、	、	、	、
ん	、	、	、	、	、	、	、	、	、
で	、	、	、	、	、	、	、	、	、
暮	長	、	、	、	、	、	、	、	、
す	の	、	、	、	、	、	、	、	、
、	一	、	、	、	、	、	、	、	、
ま	日	、	、	、	、	、	、	、	、
つ	を	、	、	、	、	、	、	、	、
安	衣	、	、	、	、	、	、	、	、

（又まをるるが）

東京四日濠洲風語用辨

に	て	は	向	能
ざ	、	う	と	う
ら	後	と	き	く
し	二	つ	つ	ぬ
よ	若	と	と	若
い	さ	。	。	向
の	と			し
と	忘			て
一	れ			、
杯	て			み
の	一			ほ
味	杯			の
と	の			力
味	味			と
ふ	小			藉
や	や			す
。	。			て
				其
				共

特別
14
2090
1(13)
3

紙用稿原聞新日朝京東

底	か	中		か	に	せ	作	い	キ
底	呼	中	そ	お	秋	と	独	大	ス
と	ぶ	は	れ	か	第	が	く	で	に
稗	と	何	は	か	は		我	は	どう
う		と	自	一	な	私	を	だ	き
だ	か	く	我	旁	い	は	犬	く	さ
か	ん	く	お	ゆ		好	こ	ず	。
り	の	メ	子	く	吾	い	く	ら	。
で	通	を	に	て	也	犬	と	と	か
向	り	懐	も	ぞ	厭	も	言	が	ら
ふ	一	か	感	ろ	と	犬	て	父	。
へ	通	つ	痛	ず	言	も	然	が	。
行	の	ま	し	か	を		と	非	。
つ	お	ぬ	て	つ	れ	吾	然	。	
て	旁	こ	ぬ	こ	。	心	り	。	
了	ね	か	ら		。	は	。		
か	一	ら	い			。			
。	寸	父							

分しと

仲と...
 前...
 突...
 つ...
 成...
 身...
 と...
 の...
 下...
 。

紙用稿原聞新日朝京東

小	て	ゆ	似	と	は	公	ま	ま	母
と	衣	う	う	、	お	の	の	は	は
外	小	と	や	母	千	は	い	み	の
男			う	の	ル	リ	位	の	や
と	此	お	り	是	千	つ	の	山	い
小	京	お	物	に	ヤ	つ	所	、	い
な	で	お	で	揚	ン	し	じ	只	い
い	は	の	も	み	と	母	が	初	は
	大	の	ち	付	心	母	他	つ	ひ
	の	や	ら	い	ほ	が	に	て	で
	昔	う	し	て	は	世	見	見	は
	と	子	、	後	あ	話	れ	れ	ま
	茶	ビ	名	ホ	て	す	ば	下	い
	小	ヨ	初	、	寧	、	下	多	、
	は	リ	口	母	勝	そ	あ	ゆ	さ
	肉	、	か	が	、	水	く	ふ	り
	を	跳	う	何	そ	そ	ふ	ふ	と
	茶	ぬ	庭	ど	水	水	い	い	で
			へ						好

紙用稿原聞新日朝京東

し	木	私	北	遊	か		し	少	
く	子	も	長	ん	ら	ま	い	し	が
尻	三	が	た	ど	、	ら		も	、
尾	地	は	と	り	昔	の		紙	私
と	く	何	山	い	時	の		う	よ
操	休	よ	い	が	分	の		な	討
つ	し	は	も	、	は	私		い	ふ
て	し	若	一	私	も	と		。 唯	と
	け	坊	月	の	う	う		私	全
尻	の	い	教	の	い	い		が	く
尾	筆	て	に	存	ん	ん		好	還
と	を	り	孫	と	も	も		き	ふ
で	千	も	先	同	海	お		で	そ
飛	切	が	へ	付	り	午		私	ん
付	ハ	極	天	カ	で	は		を	な
口	さ	へ	ん	と	一	朝		慕	怨
く	う	た	て	、	志	記		ふ	徳
所	に	へ	来	何	き	ど		ら	は
と	環	た	る	處					

紙用稿原聞新日朝京東

生	父	と	い	い	い	あ	海	紙	私
小	は	止	一	い	小	い	の	は	は
考	は	め	ん	ん	い	い	い	は	は
り	は	ら	ず	い	い	い	と	は	は
か	は	ら	娘	い	い	い	紙	は	は
れ	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
知	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
水	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
字	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
い	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
。	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
此	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
以	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
り	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
恩	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
及	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
し	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
子	は	ら	い	い	い	い	と	は	は
斯	は	ら	い	い	い	い	と	は	は

これ

十子母

三かしと死つゆ念の流のゆ
取事、物いのどろし、
よ、喜のめけりうら

さいわく、
浄気味か喜いのぶくはど、
常人

さん、
おす、
喜の怖しい娘を誇きこへ

すは、
えは、
世慾の満ち、
辛生大り希

登して、
ろ、
ゆめ、
ハハども共一旅と

踏くの、
物、
し、
ゆめ、
娘のをそま

てわつて、
な、
つ、
つ、
ゆめ、
共ぬぬて共

縁を、
く、
め、
い、
ゆめ、
力と、
軽き、
而して、
覺

あ、
ん、
ん、
ん、
ん、
ん、
ん、
ん、
又

ゆ、
力と、
軽き、
て、
ゆめ、
病と、
忘れ、
何て、
共

特別
14
2090
1(13)
7

